

序

これまで30年以上にわたり看護師・薬剤師教育のための微生物学の授業を行ってきました。その体験から、学生は「病原微生物の名前をたくさん覚えなければならぬきつい科目」と思っていると感じてきました。

この教科書の執筆は、ひょんなことから持ち上がりました。別の教科書の打ち合わせで来られた編集者との会話のなかで、さまざまな教科書の書評を行い、「この教科書はここがいいよね」とか、「この教科書はここを変えたらもっといいのにね」というような、たわいもない話のなかから、よりコンパクトな新しい微生物学の教科書を作る話にまで発展しました。医療職を目指す学生にとって、この科目の最も重要な到達目標は「病原微生物の感染制御法について理解する」ことです。

そうこうしている間に、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックが起こり、医療や介護施設などにおける感染制御の重要性を再認識させられることになりました。そこで、一歩踏み込んで、手指消毒やマスクの脱着、個々の病原微生物による院内感染対策などの説明を加えて、感染制御法の実施を意識した理解も本書の到達目標に加えしました。もちろん、これらは実習でも学ぶことと思いますが、病原微生物学のなかで学ぶことで、その必要性や意義も理解しやすいのではないかと思います。この他にも看護師国家試験に出題されたことがある箇所に黄色のアンダーラインを引いたり、院内感染症の原因となる微生物に重要アイコンをつけたり、感染症に関する情報検索サイトのリストを付録としてつけたりすることで、これまでにない教科書になったと思います。

最後に、院内感染症の制御について貴重なご意見をいただきました千葉科学大学看護学部の梅田君枝先生、上杉英生先生、富樫千秋先生に感謝申し上げます。また、芸術作品ともいえる素晴らしい表紙オブジェを作成された判子作家の京楽堂片山瑳紀様にも感謝いたします。そして、編集者の田頭氏にはさまざまな斬新なアイデアを提供していただきました。この教科書の執筆がとても楽しいものとなりました。

まったく新しい教科書なので、忌憚ないご意見をいただけると幸いです。本書で学んだことが医療の現場に立った際にも、意義あるものになることを願っています。

2020年8月

増澤俊幸